

芸術文化学部

I	(芸術文化学部) の教育目的と特徴	14-2
II	分析項目毎の水準と判断	14-6
	分析項目 I 教育の実施体制	14-6
	分析項目 II 教育内容	14-9
	分析項目 III 教育方法	14-15
	分析項目 IV 学業の成果	14-20
	分析項目 V 進路・就職の状況	14-25
III	質の向上度の判断	14-26

I 芸術文化学部の教育目的と特徴

1 芸術文化学部の概要

芸術文化学部は、平成 17 年 10 月、富山県内の 3 国立大学（(旧)高岡短期大学、(旧)富山大学、(旧)富山医科薬科大学）の再編・統合を機に、(旧)富山大学教育学部と(旧)高岡短期大学の多分野にわたる人的資源を最大限に活かし、従来の美術系学部とは一線を画した学部として 1 学部 1 学科 5 コース制で新設された。平成 18 年 4 月に第 1 期生を受け入れ、平成 19 年 5 月現在で 2 年次生までが在学している。

従って、本現況調査表は、平成 18 年、平成 19 年の 2 ヶ年のみを対象として記載するものである。

本学部の組織構成と学生数は、資料 1-1 のとおりである。

資料 1-1 芸術文化学部の組織構成と学生数 (学生数の現員は平成 19 年 5 月 1 日現在)			
	1 学年の 学生定員	現員 1 年次生	現員 2 年次生
芸術文化学部－芸術文化学科			
－造形芸術コース	15	13	21
－デザイン工芸コース	30	31	32
－デザイン情報コース	30	31	30
－造形建築科学コース	20	21	24
－文化マネジメントコース	20	22	29
計	115 人	118 人	136 人
		(出典：平成 19 年度 学校基本調査)	

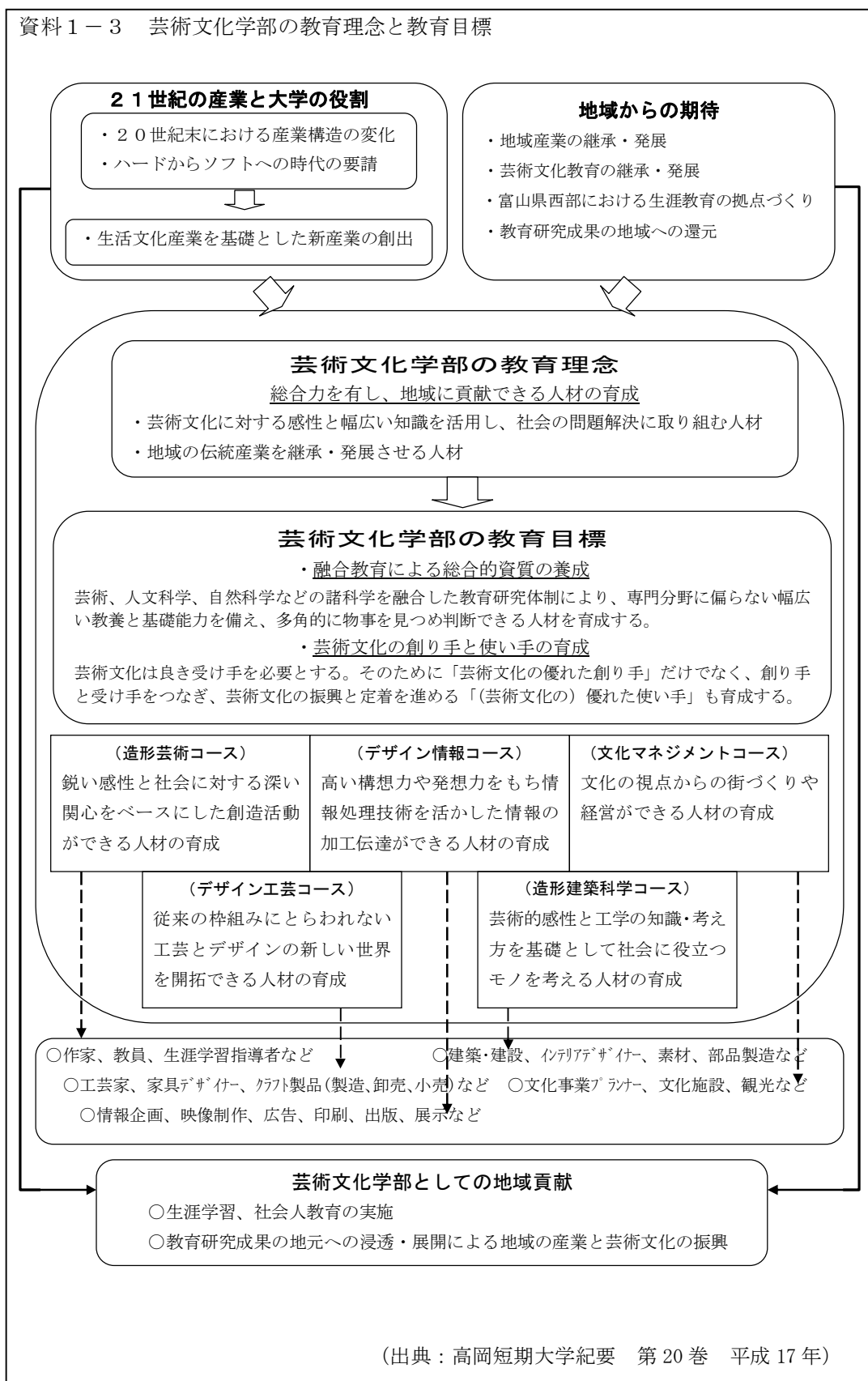
2 教育理念と教育目標

富山大学は中期目標に次の「基本的目標」を掲げている（資料 1-2）。

資料 1-2 富山大学の基本的目標
<p>地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与する。</p>
(出典：富山大学中期目標前文)

本学部では、この基本的目標を達成するために、資料 1-3 に示す学部の教育理念と教育目標を定めている。

資料1-3 芸術文化学部の教育理念と教育目標



3 教育の特徴

本学部の教育の特徴は次のとおりである。

①融合教育による総合的資質の育成

芸術、文化から人間や自然、環境まで幅広く深い理解と素養をもった社会人を養成するため、芸術文化を中核とした諸学問の融合教育を目指している。

学生がコースの垣根を越えて科目履修ができるよう必修科目を極力少なくすること、専門教育科目においても幅広い分野の科目を履修するように誘導した履修モデルを作成して学生の履修指導にあたること、授業内容では諸学問・社会との繋がりの説明を教員に課すこと、これらの仕組みにより学生は諸学問の融合教育を受けることが可能である。

②芸術文化の「創り手」と「使い手（つなぎ手）」の育成

芸術文化は、孤立して存在できるものではなく、創り手と市民（受け手）とのよい関係がなければ存在できない。そのため、「芸術文化の創り手」だけでなく、芸術文化を深く理解し、その振興と定着を進め、社会へ積極的につなぐ、いわば「芸術文化の使い手（つなぎ手）」も養成する。

③キャリアデザインに応じた自由な授業科目の履修

学生のキャリアデザインに応じて幅広い科目を履修できるよう必修科目を少なくしている。さらに卒業研究・制作では、指導教員を全ての学部教員の中から選ぶことができ、融合教育から得た最終目標としての専門分野に対応する教員に師事することができるよう配慮している。

④メンター（助言教員）制度による、きめ細かな指導

教員一人が1学年5～6名の学生を担当し、入学から卒業までの4年間、履修相談や進路相談など大学生生活全般にわたって助言指導する。

「想定する関係者とその期待」

本学部の想定する第一の関係者は、

- 美術・工芸・デザイン・情報・建築・文化マネジメントの分野に興味を持ち
- 技術・企画力・デザイン力を総合的に高めたいと考え
- 将来、人々の豊かな生活の創造に貢献しようという希望を持った

受験生、在校生である。

本学部独自アンケートの結果、それら関係者が身につけたいとする期待は資料1-4のとおりである。

資料1-4 アンケート結果からわかった関係者の期待

- ・造形芸術コース……様々な手法で芸術的に表現できる能力
- ・デザイン工芸コース…伝統的な技術を新しいセンスで現代に活用できる能力
- ・デザイン情報コース…アイデアを発想して、新しいモノを構想する能力
- ・造形建築科学コース…素材や空間、環境を科学的に知りものづくりに生かせる能力
- ・文化マネジメントコース…歴史や文化的背景を知り、芸術を鑑賞し説明できる能力

(出典：富山大学芸術文化学部設置計画書、p30)

一方、富山県は、銅器、漆器、木彫等の伝統工芸産業や、アルミ、ガラス、薬品等の産業、そして衣食住、祭事等に関わる伝統文化、さらに立山連峰に代表される観光資源を数多く有している。本学部はこうした産業、伝統文化、観光に関わる企業及び行政を関係者として想定する。これら関係者からは、

○創造力・デザイン力のある人材の育成

○伝統技能を継承し、新たな世界を開拓できる後継者の育成

○工学的・科学的知識を持って住環境・生活環境を創造できる人材の育成

○伝統文化の価値を再評価し、新たに発展できうる企画力を持った人材の育成

に強い期待が寄せられている。

また、旺盛な学習意欲を持つ地域住民も関係者として想定し、これら関係者からは、

○教育・研究成果の還元

○生涯教育，社会人教育

に多様な期待が寄せられている。

II 分析項目毎の水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点毎の分析

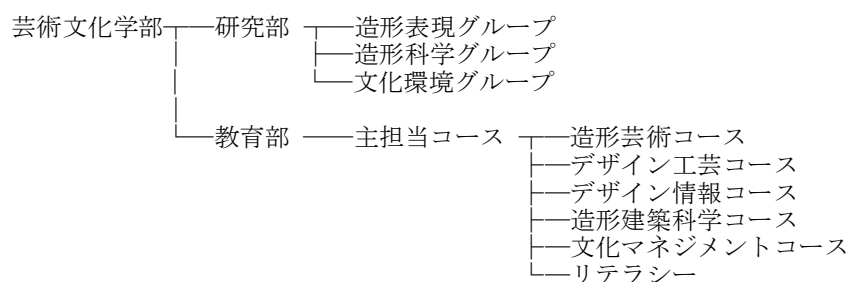
観点 1-1 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本学部の基本理念を実現するための教育組織として、1学科5コース制を採用している。本学部には教員組織の研究部と教育組織の教育部があり、教員は研究部に3つの専門分野グループに分かれて所属している(資料1-1-1)。

一方、コースの教育に対する責任を明確にするため、教員は教育部の各コースにも配置されている。また主としてリテラシー科目に責任を有する教員グループ(リテラシー)が配置されている。

資料1-1-1 研究部と教育部の構成と教員数 (平成19年5月1日現在)



研究グループ別教員数 (単位:人)

	教授	准教授	講師	助教	合計
造形表現	8	5	1	4	18
造形科学	6	6	4	1	17
文化環境	14	2	2	1	19
合計	28	13	7	6	54

主担当コース別教員数 (単位:人)

	教授	准教授	講師	助教	合計
造形芸術	6	2	0	0	8
デザイン工芸	4	3	1	3	11
デザイン情報	3	2	3	1	9
造形建築科学	6	3	0	1	10
文化マネジメント	5	1	1	0	7
リテラシー	4	2	2	1	9
合計	28	13	7	6	54

(注) 主担当コース

教育を行う組織である教育部では、学生が所属する5つのコース及びリテラシー科目のまとまりを1つのコースとみなして計6コースに教員を配置している。教員は配置されたコースの教育内容・方法に責任を持つため、この配置されたコースをその教員の「主担当コース」と呼ぶ。

(出典: 総務管理課総務係にて調査)

富山大学芸術文化学部 分析項目 I

平成 19 年 5 月 1 日現在の教員数は 54 人（教授 28 人，准教授 13 人，講師 7 人，助教 6 人）であり，学部の設置基準を満たし，学部の教育に必要な専任教員が確保されている。

また，融合教育と社会で活躍できる人材を育成するために，多くの実務経験者（34 人/54 人中，62%）を採用している（資料 1-1-2）。

なお，本学部の教員は，高岡短期大学部との併任で，学部と短大部の教育指導に当たっている。

資料 1-1-2 教員に占める実務経験者の数 (平成 19 年 5 月 1 日現在)

(単位:人)

	作家	会社 経営	会社 勤務	公務員	中・高 教員	実務経験 なし
教授	4	5	5	4	3	7
准教授	0	0	2	3	2	6
講師	1	0	1	1	1	3
助教	0	0	1	0	1	4
合計	5	5	9	8	7	20

(出典：総務管理課総務係にて調査)

観点 1-2 教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

本学部の運営委員会と教務委員会の協力のもと，毎年 FD 講習会を開催し，教員の学生指導のスキルアップを図った（資料 1-2-1）。その結果，学習成果の素早い展示公開，情報メディア機器の積極的活用等の改善が見られた。

資料 1-2-1 FD 講習会の実施状況

年度	開催日	目的	講師	参加者 数(人)
18	12月7日	本学部教員の学生指導スキルアップに資するため	広島大学大学院総合科学研究科 布川 弘	23
	3月20日	メンター教員としての資質向上を図るため	本学部メンターリーダー会議議長 近藤 潔	48
19	9月18日 19日	「CADソフト」の講習を行い，授業で活用できる知識を高めるため	(株)アプリクラフト代表 中島 淳雄	25
	12月12日	学生のメンタルケアへの基礎的な対応を学ぶ	本学保健管理センター長 齋藤 清二， 本学保健管理センター 西村 優紀美	36

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

平成 18 年度には、教育方法の改善を目指して、学生による授業アンケート調査を試行し、効果的設問のあり方を検討した（別添資料 1）。平成 19 年度にはこの検討結果を踏まえて設問に「シラバス（講義要項）の実効性」について 2 問を加え、本学部としての第 1 回の学生による授業アンケート調査を実施した（別添資料 2）。平成 20, 21 年度にその結果を活用するため、授業アンケート結果に対する各教員からのコメントを web サイトにて学生に返す仕組みを構築中である。

また、メンター教員（学生指導体制）によるアンケートを実施して、履修及び学生生活の満足度を調査し、その結果をメンターリーダー会議、教務委員会、学生生活委員会において検討し、学生の希望や不満を迅速に把握した（別添資料 3）。

本学部では、融合教育の理念により、授業はすべてのコースに開放されている。そのため、履修カリキュラムの編成は、従来型の学科コースに比べて難しい点が多いことから、平成 18 年度に新入生を迎えてから、運営委員会の下に「学部教育方針検討プロジェクト」を立ち上げて、以下のような改善を図った。

- 一つの科目に対する履修希望学生数が多い場合は複数クラスにして対応した（資料 1-2-2）。

資料 1-2-2 複数クラスで対応した科目名

「生活と環境」「基礎造形表現（平面）」「英文表現・理解 B-1」「イングリッシュコミュニケーション入門」「イングリッシュコミュニケーション中級」「観光英語」「中国語会話 I」「シンボルデザイン演習」「デザインコミュニケーション」「コンピュータの基礎」

（出典：芸術文化学部教務委員会にて調査）

- 一つの科目に学生の履修が集中しないように、タイムテーブル上の科目の組み合わせを再編成した。（タイムテーブルとは演習・実習の連続型授業の時間割）
- 実習系科目は実技室・教員の許容量等を考慮して、タイムテーブルか時間割のいずれにおいて開講すべきかを検討して再配置した。

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

本学部は、「芸術文化に対する感性と幅広い知識を活かし、社会の問題解決に取り組む人材」及び「地域の伝統産業を継承・発展させる人材」を育成することを教育理念とする教育組織として、十分な教育が実施できる体制をとっている。また、主要な授業科目を専任教員が担当するように人員が配置されている（資料 1-1-1）。

毎年 FD 講習会を開催し、教員の学生指導のスキルアップを図った結果、素早い学習成果の展示公開、情報メディア機器の活用等の改善が見られた。

平成 18 年度の試行結果に基づき平成 19 年度に第 1 回「学生による授業アンケート調査」を実施した。現在、学生の要望、疑問・質問を素早く把握し、教員の改善を促して授業アンケート結果に対する各教員からのコメントを web サイトにて学生に返す仕組みを構築中であり、学生と教員相互による授業改善を着実に進める礎を築いた。

さらに、メンター教員によるアンケートを実施した結果、履修希望学生が一科目に集中する問題が分かり、「学部教育方針検討プロジェクト」会議において複数クラス化、科目の配置等を調整して改善した。このようにして、学生の希望や不満を把握して迅速に教育方法の改善に反映した。

以上のことから、本学部の教育の実施体制は、期待される水準にあると判断する。

分析項目 II 教育内容

(1) 観点毎の分析

観点 2-1 教育課程の編成

(観点に係る状況)

本学部の授業科目は、教育目標の「融合教育による総合的資質の育成」と「芸術文化の創り手と使い手の育成」を達成するため、基本スキルと幅広い教養を重視した教養教育と、高い専門教育の科目群から構成されている(資料2-1-1)。

学部規則に基づき、「教養教育科目」(卒業要件単位数 50 単位以上)と「専門教育科目」(卒業要件 80 単位以上)を開設している。教養教育科目はリテラシー科目、立山マルチヴェース講義、幅広い教養教育科目の区分ごとに、専門教育科目では、学部共通科目、基幹科目、展開科目、卒業研究・制作の区分ごとに修得しなければならない単位数を定め、「芸術文化学部 履修の手引き」に掲載して学生への周知を徹底している。

資料 2-1-1 授業科目の構成

①リテラシー科目

コミュニケーションに主眼を置いた外国語、情報処理、健康スポーツ、導入ゼミ授業の開講。

②立山マルチヴェース講義

芸術文化学部のある高岡キャンパス、人文学部、人間発達科学部、経済学部、理学部及び工学部のある五福キャンパス、医学部及び薬学部のある杉谷キャンパスの3キャンパスの教員が同じテーマ(感性をはぐくむ、富山学-わたしの富山、心・身体・そして生命)で、オムニバス形式で行う講義を大学すべての学生を対象に双方向遠隔システムを利用して開講。

③幅広い教養教育科目

人を知る、文化芸術を知る、社会を知る、自然とモノを知る、自分を表現する、の5分野からなる豊かな感性と広い視野を得るための授業を開講。

④専門教育科目

次の3段階の授業を開講。

- ・学部共通科目 (芸術の理解、芸術文化と自然・社会との関係の理解、造形芸術・デザインの技法、の3分野)
- ・基幹科目 (従来の縦割り教育を一新し、コース間にまたがって横断的に提供する専門教育授業)
- ・展開科目 (各コースを特徴づける専門性の高い授業)

⑤卒業研究・卒業制作

4年次に開講。

(出典：OPEN CAMPUS' 06 配布資料)

幅広い教養教育科目が1・2年次を中心に4年間にわたって開設され、常に専門科目との連携を保つ体制になっている。専門教育科目は、1年次の学部共通科目から始まり、基幹科目、展開科目へと徐々に高度な内容へと進み、4年次には最終段階の卒業研究・制作に結実するよう配慮されている。

こうした教育課程を学生へ分かりやすく説明するため、「芸術文化学部 履修の手引き」、シラバス(別添資料4)と授業時間割(別添資料5)を作成している。さらに、各コース別、進路希望別に履修モデルを作成して学生に配布している(資料2-1-2)。

この履修モデルを使い、諸学問の科目を履修して融合教育が図られるよう誘導している。また、この履修モデルを利用することにより、年度当初のガイダンスやメンター教員による助言指導が教員間のバラツキなく効果的に行われた。

資料 2-1-2 履修モデル例 デザイン工芸コース プロダクト系履修モデル

	1 年 次	単 位 数		2 年 次	単 位 数		3 年 次	単 位 数		4 年 次	単 位 数		
		必修 1 2 3	選択 1 2 3		必修 1 2 3	選択 1 2 3		必修 1 2 3	選択 1 2 3		必修 1 2 3	選択 1 2 3	
教 養 科 目	リテラシー 科目	イングリッシュコミュニケーション入門1	1	1	イングリッシュコミュニケーション中級1	1	3					20	
		イングリッシュコミュニケーション入門2	1	1	イングリッシュコミュニケーション中級2	1	3						
		英文表現・理解A-2	2	1									
		英文表現・理解A-1	2	1									
		情報処理入門	2	1									
		コンピュータによるデザイン入門	2	1									
		健康スポーツⅠ	1	1									
		健康スポーツⅡ	1	1									
		基礎ゼミ	2	1									
		プロジェクトゼミ	2	1									
立山マルチゲ ス科目	感性をはぐくむ	2	3									2	
幅 広 い 教 養 教 育 科 目		ライフスタイル	2	2	人と空間	2	2					24	
		地域と文化	2	2	美術の楽しみ(形で表現する)	2	2						
		造形図法	2	2	人と道具	2	3						
		生活の中のデザイン	2	2	工作の楽しみ	2	3						
		デザイン工芸概論	2	2	情報の読み方	2	2						
		デザインの世界	2	3									
		形の発想	2	3									
専 門 科 目	芸術の理 解			近代デザイン工芸論	2	2					28		
				意匠と文様	2	3							
				美学	2	3							
	芸術文化 と自然・社 会との関 係の理解	工芸・デザイン材料	2	2	デザイン史	2	2						
		マーケティング	2	3	働態学	2	3						
	造形芸術・ デザインの 技法	基礎造形表現/立体	2	2	デザインプレゼンテーション	2	2						
		アイデア発想法	2	2	生活用具制作	2	2						
		基礎デザイン演習	2	2									
		ビジュアル基礎演習	2	3									
		デザイン工芸のための機械操作	2	3									
基 幹 科 目		人間工学概論	2	2	コース共同課題	2	1	地域産業論	2	2		28	
		金工基礎演習	2	2	プロダクトデザイン	2	2	デザイン工芸のためのCAD演習	2	3			
		漆工基礎演習	2	2	デザインマネジメント概論	2	2	デザイン調査法	2	3			
		木工基礎演習	2	2	デザイン製図演習	2	3	製品評価法	2	2			
				コンピュータによるデザイン演習	2	3							
				デザインリサーチ	2	2							
展 開 科 目				形態発想実習	2	2	工芸プロダクト・デザイン	2	2	空間デザイン(インテリア)	2	2	
				マーケティング・マネジメント	2	3	人間工学設計法	2	2	インターフェイスデザイン演習	2	3	
						プロダクトデザイン実習A	2	2	ブランドデザイン	2	3		
						プロダクトデザイン実習B	2	2					
				工芸プロダクト・制作	2	2							
卒業研究・制作							卒業制作・研究	8	1	8			
単 位		56		42		18		14	130				

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

観点2-2 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

他学部の授業科目の履修については、学部規則に基づき、本学部が教育上有益であると認めた場合に限り、60単位を超えない範囲で卒業要件に含めることができる(教職に関する科目を除く)としている。また、他大学の授業科目において履修した単位は、本学部が教育上有益であると認めた場合に限り、上記の他学部の授業科目の履修により修得した単位と合わせて60単位を超えない範囲で卒業要件に含めることができる、としている。

取得可能な各種免許・資格としては、中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)、学芸員、2級建築士受験資格、1級建築士受験資格(造形建築科学コース生のみ)があり、これらの取得を考慮に入れた教育課程の編成を行っている。

学生からの希望や要請に対応するために、オフィスアワー、メンター制度、学年担任制を設けて多角的にサポートしている。

平成19年度には学部教務委員会の下に教職等専門委員会を設置し、教職を希望している学生のニーズにさらに対応できる体制を整えた。

1年次生から各種のキャリア教育を実施し、また社会において有効な各種免許・資格につながるよう教育課程の編成上の工夫を行っている。1年次生の段階から「キャリアアップ就職講座」を開催し、毎回、参加学生にアンケート調査を行い、キャリア教育の効果を確認し改善に役立てている(資料2-2-1, 2-2-2)。

資料2-2-1 学部における就職支援事業

平成18年度

【キャリアアップ就職講座】

回数	開催年月日	開催時間	テ ー マ	参加人数
1	18.12.7	13:00~14:30	サントリー(株)デザイン部 アートディレクター 藤田 隆	88
2	19.2.1	13:00~14:30	(株)グローバルユースビューロー 企画部長 信本 ゆかり	29

【就職前講座; jobサポートとやま】

回数	開催年月日	開催時間	内 容	参加人数
1	18.11.16	13:30~15:00	学生キャリア形成サポートセミナー「充実した人生を送るために」 米国サンフランシスコ州立大学 客員教授 飯田 国彦	101

平成19年度

【キャリアアップ就職講座】

回数	開催年月日	開催時間	テ ー マ	参加人数
1	19.4.25	13:00~14:30	「建築に求められるデザインとマネジメント」 (株)三四五建築研究所代表取締役 稲葉 実	60
2	19.5.30	13:00~14:30	「ゼロからの出発」 K2 CREATION クリエーティブディレクター 金子 隆亮	24
3	19.6.27	13:00~14:30	「学生時代に培ったセンスを企業にどのようにいかしたか」 ノムラテクノ(株) 造形演出部 メディアディレクター 秦 直樹	100
4	19.10.24	13:00~14:30	(株)フォルムデザインオフィス 代表取締役 平井 宥子	52
5	19.11.7	13:00~14:30	金沢21世紀美術館 学芸員 鷺田 めるろ	17
6	19.11.21	13:00~14:30	「環境デザイン(建築・インテリア)の世界」 (社)インテリアプランナー協会 北陸支部長 村上 章彦	27
7	19.12.12	14:30~16:00	「3DCGの制作現場」 カシオエンターテイメント(株) ディレクター 片瀬 満則	141
8	20.1.23	13:00~14:30	「教職の魅力と心構え」 富山県教育委員会 西部教育事務所 指導主事 荒治 和幸	20

【就職出前講座；job サポートとやま】

回数	開催年月日	開催時間	内 容	参加人数
1	19. 10. 31	13:00～14:30	新生入向けセミナー「働く」こと、「学ぶ」こと キャリアコンサルタント 中小企業診断士 羽田野 正博	86
2	20. 1. 30	13:00～14:30	就職意識向上セミナー キャリアコンサルタント 中小企業診断士 羽田野 正博	37

【就職ガイダンス】

回数	開催年月日	開催時間	内 容	参加人数
2	19. 10. 24	14:00～15:00	「就活を始める前に」 リクルート	40

(出典：芸術文化系学務課学生係にて調査)

資料 2-2-2 「キャリアアップ就職講座」の参加状況と回収アンケート結果の一例

第 7 回キャリアアップ就職講座 (H19. 12. 12) 「3 DCG の制作現場」
(講師) カシオエンターテイメント (株) ディレクター 片壺 満則氏

参加状況及び回収アンケート数一覧表

コース名	学生総数 (人)	参加者数 (人)	参加率	回収 アンケート数	アンケート 回収率
造形芸術	34	19	55.9%	11	57.9%
デザイン工芸	63	20	31.7%	5	25.0%
デザイン情報	60	31	51.7%	21	67.7%
造形建築科学	45	11	24.4%	5	45.5%
文化マネジメント	51	28	54.9%	17	60.7%
計	253	109	43.1%	59	54.1%

コース別学生のアンケート結果

(単位：人)

講演会の内容	造形 芸術	デザイン 工芸	デザイン 情報	造形建築 科学	文化 マネジメント	計
1 大変参考になった	7	2	18	3	14	44
2 参考になった	3	3	3	2	3	14
3 どちらかといえば 参考になった	1	0	0	0	0	1
4 どちらかといえば 参考にならなかった	0	0	0	0	0	0
5 参考にならなかった	0	0	0	0	0	0

(出典：芸術文化系学務課学生係にて調査)

富山大学芸術文化学部 分析項目 II

平成 19 年度では 1・2 年次生しか在学していないため留学プログラムはない。しかし、平成 19 年度にはデザイン先進国のフィンランドのラハティ応用科学大学と大学間交流協定を締結し、平成 20 年度以降、留学プログラムを実施する。

融合教育を通して他コースの専門分野や進路を学んだ結果、転コースを希望した学生に対応して、1 年次の冬には転コース試験を実施し、2 名の学生に対し転コース許可を出した。

こうした取組によって、平成 18 年度入学生の退学者数は 2 人/118 人、平成 19 年度は 1 人/136 人に止まっている。

なお、旺盛な学習意欲を持つ地域住民への対応として、平成 18 年度には 18 講座、平成 19 年度には 12 講座を公開講座として開講した（資料 2-2-3）。

資料 2-2-3 公開講座開講実績

年度	講座区分	講座数	時間数 (時間)	募集人数 (人)	受講人数 (人)	受講 対象者
18	専門・職業	2	67.5	18	19	市民一般
	現代的課題	2	24.0	36	26	市民一般
	一般教養	2	24.0	25	19	市民一般
	語学	1	12.0	12	11	中学 3 年 生以上
	趣味	7	254.5	76	80	市民一般 及び学生
	スポーツ	1	9.0	10	8	市民一般
	連携公開講座	3	72.0	42	41	高校生、専 門学校生
	計	18	463.0	219	204	
19	専門・職業	0	0.0	0	0	市民一般
	現代的課題	1	12.0	15	20	市民一般
	一般教養	2	24.0	25	18	市民一般
	語学	1	12.0	12	13	中学 3 年 生以上
	趣味	8	247.5	82	62	市民一般 及び学生
	スポーツ	0	0.0	0	0	市民一般
	連携公開講座	0	0.0	0	0	高校生、専 門学校生
	計	12	295.5	134	113	

(出典：総務管理課専門職員（生涯学習担当）にて調査)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学生には、メンター教員が履修モデルを用いてきめ細かな履修指導を行い（資料 2-1-2）、また各種免許・資格取得に関わる科目履修については、適切な時期にガイダンスを実施し、履修計画の指導助言を行った。

平成 19 年度には学部教務委員会の下に教職等専門委員会を設置し、教職を希望してい

る学生のニーズにさらに対応できる体制を整えた。

キャリア教育には1年次から力をいれ、就職講座の参加学生へのアンケート調査結果を分析しながらキャリア教育内容の改善に役立てた（資料2-2-2）。

学生の転コースという進路希望に配慮して転コース試験を実施し、学生の向学心に対応した。

こうした取組によって、平成18年度入学生の退学者数は2人/118人、平成19年度入学生は1人/136人に止まっている。

また、生涯教育への対応として、年間10以上の公開講座を開講した（資料2-2-3）。

以上のことから、本学部の教育内容は期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点毎の分析

観点3-1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

本学部の授業科目の授業形態については、授業科目の特性に応じた構成をとり、講義、演習、実習、実験等の授業形態のバランスを図っている。中期計画では、資料3-1-1に示す取組を掲げて、教務委員会において検討し、教育課程の編成と授業形態をとっている。

資料3-1-1 授業形態に関する中期計画

少人数教育、対話型教育などを通して課題を発見し探求する能力を育成する。

(出典：富山大学の中期計画，大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置 ③学部教育，p1)

具体例としては、英語、情報処理入門、健康スポーツなどの必修科目について、学生の履修要望・習熟度・意欲に対応したクラスを開設するなど、多様な能力に対応しつつ教育上の効果を上げる目的で複数クラス・少人数の授業を行った。また、履修希望学生の多い科目については、履修学生数を制限するのではなく、クラスを複数に分けて開講した(資料1-2-2)。

演習・実習科目は、2コマを連続して使う専用のタイムテーブルを作成し、集中した実技指導を実施している(別添資料6)。このため、効率的制作が可能となっている。

講義、演習、実習、実験の各授業では、専門研究分野の異なる複数の教員が授業を担当する科目を多数設け、幅広い分野からの視点に立った融合教育への方策の一つとしている(資料3-1-2)。

資料3-1-2 複数教員担当科目数

(オムニバス方式を除く)

総科目数 279 科目中 50 科目

(内訳：講義 21/145 科目，演習 12/72 科目，実習 15/55 科目，実験 2/7 科目)

(出典：芸術文化学部教務委員会にて調査)

教育目標の「芸術文化の創り手と使い手の育成」を達成するには、実社会で活躍する創り手及び使い手との接触は重要である。また、産業、伝統文化、観光に関わる企業・行政の関係者の要請を教育に反映させることも重要である。こうした考えから、社会との連携を図る実証的授業を平成19年度に23開講し、実社会で活躍する創り手及び使い手による教育指導を授業に取り入れる学習指導法の工夫を行った(資料3-1-3)。なお、実証的授業とは、主に地元高岡との連携推進を目的とし、企業等と連携した実践的な授業である。

資料3-1-3 実証的授業の招聘企業人一覧(平成19年度)

	実施日	所属	氏名	題目等
1	7月26日	ジュエリークラフト JUN 代表	高田淳一	「ジュエリー制作の現場から」

富山大学芸術文化学部 分析項目 III

2	8月6日	松下電器産業 ㈱上席審議役	植松豊行	「パナソニック・デザイン社の活動紹介ーデザイン・アイデンティティ開発とユニバーサル・デザインへの取組ー」
3	11月2日 ～11月20日	日本画家	清河恵美	「日本画に関する作画法」
4	10月4日 ～11月13日	ナラハラ・ア ートスタジオ	榎原忠司	「大型環境造形作品における塑造原型と鑄造・設置に関する実践」
5	10月17日	アップリカ葛 西㈱グループ 代表	葛西健蔵	「幸せ育児教育産業」への出発
6	10月29日	京都造形芸術 大学学長	千住 博	「芸術とは何か」
7	11月10日	㈱隈研吾建築 都市設計事務所	宮澤一彦	「水ブロックミュージアム」ワークショップ
8	11月12日		大重美智子	私のボランティア論ー瑞龍寺観光ガイド体験からー
9	11月13日	㈱隈研吾建築 都市設計事務所 代表取締役	隈 研吾	「環境から考える建築デザイン」
10	11月20日	高岡市デザイ ン・工芸セン ター主任	日野 利	ペーパーナイフのデザイン
11	11月20日	㈱能作社長	能作克治	生型鑄造による商品作り
12	11月26日		牛島由美子	私のボランティア論ーNPO 法人富山県民ボラン ティア総合支援センターの活動
13	12月4日	㈱ジャストシステム 広報 IR 室長	竹村 譲	メディアに関する講師を招いて実践的な教育を実施
14	12月5日	長岡貞夫デザ イン事務所所 長	長岡貞夫	インテリア・デザインの実践
15	12月12日	カオエンターテイメント ㈱	片壺満則	3DCGによる映像表現
16	12月14日	オーノ J A P A N	大野博史	空間デザインCの授業において、外部講師を招聘 する
17	12月17日		南部治夫	私のボランティア論ー呉羽丘陵森の楽校からー
18	平成20年 1月7日	サントリー㈱ デザイン部長	加藤芳夫	デザインの世界の授業において、外部講師を招聘 する
19	1月22日		横山雅美 (都甲)	アートマネジメント：「マーケティング・コミュ ニケーション」の理解と実践例紹介
20	1月24日	㈱スタジオギ ブ	山岡 茂	「展覧会制作におけるエディトリアルデザイン」、 「広告制作、マスメディアデザインの現況」
21	1月29日		能島芳史	洋画制作への考えや思いを講演
22	2月1日	富山県立高岡 養護学校教諭	米田昌功	絵画制作への考えや思いを講演
23	2月7日	NPO 法人エッ センスクラブ 代表	赤穂英吏子	私のボランティア論ー体験からー

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

加えて、平成 19 年度からは、現代教育ニーズ取組支援プロジェクト（現代 GP）「出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育」によって、学外との連携授業をさらに推進し、学生の主体的な成長を促す新しい学習指導法を導入した（資料 3-1-4）。

資料 3-1-4 平成 19 年度現代 GP

テーマ名	地域活性化への貢献（広域型）
取組み名称	出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育 —ものに語る連鎖型創造授業—
取組の概要	富山県は、銅器・漆器等の伝統産業や豊かな文化・自然資源に恵まれた地域であり、それらの継承と発展のために新しい発想力・応用力が強く求められている。こうしたニーズに対して本学部では、前身の高岡短期大学の頃より、地域の問題を共有した連携授業を推進し、3 件の教育 GP 支援事業へと発展させて成果を上げてきた。 本取組では、この連携授業を富山県全域に展開し、大学と地域の双方が新しい価値の創造に協同参画する「芸術文化教育の地域キャンパス化」を目指す。具体的には、コンセント委員会のもとで、地域の資源と大学の知識、学生の豊かな創造力を連携させてコラボレーション授業を行う。これらの授業は、4 年間のカリキュラムに「出会い・試し・気づき・つなぐ」の連鎖型成長ステップを設定し配置する。成果は具体物として可視化し、発表・評価の場を地域へ拡大して「見る・触れるからの発想」教育方法を確立するとともに、地域活性化に貢献する。

（出典：芸術文化学部評価委員会にて調査）

中期計画に沿って、科目間の連携を重視したカリキュラム編成、各授業における学習目標や目標達成のための授業方法・計画及び成績評価基準を明示したシラバスを作成している（別添資料 4）。シラバスへの記載項目をフォーマット化し（資料 3-1-5）、学生が知りたい内容が整理されている。

シラバスはホームページ上で公開している。さらに、各教員が授業の初回で、履修学生に対してシラバスの全内容を説明することによって、学生のシラバスに対する理解を深めている。

資料 3-1-5 シラバスの記載項目

「授業の目標」「授業の概要」「学生の学習目標（授業の到達目標）」「評価の方法・割合」「レポート等」「テキスト・教材・参考書等」「その他履修上の注意事項や学習上の助言」

（出典：芸術文化学部教務委員会にて調査）

観点 3-2 主体的な学習を促す取組

（観点に係る状況）

授業科目の履修指導にあたっては、シラバスの記載に従い、学生の自主学習を促している。またシラバスに、教員のオフィスアワー（複数時間設定）やメールアドレスを明記することにより、学生は授業時間外であっても受講科目担当者から個別に直接指導を仰ぐことができる仕組みとなっている。

履修ガイダンスとして学年のはじめに、全体オリエンテーション、コース別オリエンテーションを行い、学生の学習目標に応じた履修指導を行っている（資料 3-2-1）。

学生の自主的な履修計画を促すために、各コースから多くの履修モデルを提供して（資料 3-2-2）、各学生の要望に対応した履修ガイドを示して指導を行っている。

資料 3-2-1 平成 19 年度オリエンテーション実施状況

開催日	内 容	対象者
4 月 9 日	新入生全体・コース別オリエンテーション	1 年生
7 月 1 1 日	後学期開講科目 全体コース別・オリエンテーション	2 年生

(出典：芸術文化学部教務委員会にて調査)

資料 3-2-2 各コース履修モデル数

年度	造形 芸術	デザイン 工芸	デザイン 情報	造形 建築科学	文化 マネジメント
18	4	5	5	4	6
19	3	5	5	4	4

(出典：芸術文化学部教務委員会にて調査)

さらに、前期末には後期の履修計画に関するガイダンスを実施し、後期末には翌年前期の履修計画に関するガイダンス及び演習・実習・実験科目の履修希望調査を実施し、授業ごとに適切な履修者数となるよう調整して、中身の濃い実習授業内容とすることが可能となった。

本学部の学生指導体制は、コースに配置された学年担任教員とメンター教員とによる 2 本立ての指導となっている。学生は、コース学年担任を通じてコースの教育目標（資料 1-3）に沿った専門的な指導を受けるとともに、コース横断的な視点からメンター教員の助言、指導を受けることができる。

デザイン・工芸・建築に係る制作については、バランスよく授業での学習と授業時間外学習を指導できるように学生控室と教員研究室を隣接させる工夫をしている。また、午前 8 時から午後 10 時まで学生が自由に使えるコンピュータを 30 台配置した自習・教材作成室を設け、授業時間外学習に取り組める環境を整備している。

以上のように、授業形態の組合せと学習指導法の工夫、主体的な学習を促す取組を行っている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本学部の特徴である融合教育を図りつつ、各コースの教育目標の特性に応じ、授業形態の組み合わせ・バランスを図っている。具体的には、必修科目を極力少なくしたことによる履修科目の弾力化、プロジェクト型授業、外国語科目の少人数・複数クラス編成、演習・実習科目のタイムテーブル（集中型演習・実習等の時間割）など、適切な学習指導法の工夫がなされている。

教育目標の「芸術文化の創り手と使い手の育成」を達成するため、社会との連携を図る実証的授業を平成 19 年度に 23 開講し、実社会で活躍する創り手及び使い手による教育指導を授業に取り入れる学習指導法の工夫を行った（資料 3-1-3）。さらに平成 19 年度の現代 GP に採択された取組によって、学外との連携授業をさらに推進する学習指導法を

導入した（資料3-1-4）。

授業担当教員は、学生が授業内容を理解しやすいように工夫されたフォーマットに沿ってシラバスを記入することが義務付けられている。また、オリエンテーション時及び初回の授業において、教員はシラバスの内容の周知に努めている。

学生は、コース学年担任を通じてコースの教育目標に沿った専門的な指導を受けるとともに、コース横断的な視点からメンター教員の助言、指導を受けることができる。また、各コースの進路に対応した複数の履修モデルを作成しているため（資料3-2-2）、ガイダンスやオフィスアワー時に、コース学年担任やメンター教員が融合教育やキャリアデザインのための履修指導を行う際、教員間で指導のバラツキがなくなる効果を生んでいる。

デザイン・工学・建築に係る制作については、バランスよく授業での学習と授業時間外学習を指導できるように、学生控室と教員研究室を隣接させる工夫をしている。また、午前8時から午後10時まで学生が自由に使えるコンピュータを30台配置した自習・教材作成室を設け、授業時間外学習に取り組める環境を整備している。

これらのおり、学生が主体的に学習できる授業形態・学習指導方法及び単位の実質化が確保される体制と工夫を行っている。

以上のことから、本学部の教育方法は期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点毎の分析

観点4-1 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

本学部は、「融合教育による総合的資質の育成」と「芸術文化の創り手と使い手の育成」を教育目標としている。創り手育成の中心となる演習・実習科目では、専用のタイムテーブルを作成している(別添資料6)。このため、1年次の段階から全コースの学生が短期集中的に創り手の立場を経験し、幅広く芸術文化の基礎を学習している。その結果は、演習・実習科目に複数コースの学生の履修が認められたことに現れている(資料4-1-1)。

資料4-1-1 演習・実習授業におけるコース別履修者数

年度・学期	開講学年	授業科目名	コース別履修者数					総履修者数
			造形芸術	デザイン工芸	デザイン情報	造形建築科学	文化マネジメント	
18年度 前学期	1年	基礎造形表現(立体)	18	17	16	20	15	86
		基礎デザイン演習	10	7	29	24	9	79
		ビジュアル基礎演習	11	17	30	24	14	96
		彫刻基礎演習(塑造)	10	14	0	0	8	32
		鑄金工芸基礎演習	3	15	11	2	5	36
		工芸制作入門	11	25	0	0	16	52
18年度 後学期	1年	絵画基礎	17	8	2	0	0	27
		シルクスクリーン演習	11	2	11	0	5	29
		金工基礎演習	3	13	0	0	2	18
		木工基礎演習	1	10	3	3	2	19
		漆工基礎演習	0	11	2	0	12	25
		シンボルデザイン演習	3	3	29	0	15	50
19年度 前学期	1年	基礎造形表現(立体)	3	0	1	7	3	14
		基礎デザイン演習	4	4	19	14	0	41
		ビジュアル基礎演習	2	14	25	16	18	75
		彫刻基礎演習(塑造)	13	20	6	1	3	43
		工芸制作入門	6	27	11	0	0	44
	2年	デザインプレゼンテーション	12	9	30	0	21	72
		インタラクティブアートプログラミング基礎	6	0	0	1	0	7
		環境絵画A	6	2	1	2	0	11
		蝋型鑄造	0	5	0	0	0	5
		漆用具製作	0	6	0	0	1	7
		木工具演習	1	9	0	1	0	11
		鍛金	0	4	0	0	0	4
		漆素地制作	0	6	0	0	0	6
		ジュエリー制作	2	8	1	1	6	18
		コンピュータによるデザイン演習	7	5	27	2	11	52
空間デザインB	0	7	0	23	0	30		

年度 ・学期	開講 学年	授業科目名	コース別履修者数					総履修 者数
			造形 芸術	デザイ ン 工芸	デザイ ン 情報	造形建築 科学	文化 マネジ メント	
19年度 後学期	1年	シルクスクリーン演習	12	1	13	0	4	30
		金工基礎演習	6	15	2	0	3	26
		木工基礎演習	4	23	2	19	2	50
		鋳金工芸基礎演習	1	8	4	0	1	14
		漆工基礎演習	1	18	8	0	8	35
		シンボルデザイン演習	1	0	26	1	15	43
		木工機械加工実習	1	15	1	21	1	39
	2年	絵画A	14	2	0	0	0	16
		環境造形A（塑造）	1	1	0	0	0	2
		環境絵画B	10	2	0	0	0	12
		複合鍛金	0	9	0	0	0	9
		抽象立体表現	5	9	0	0	0	14
		生型鋳造	2	7	0	0	0	9
		漆塗装	0	10	0	0	0	10
		クラフト・デザイン	0	11	0	1	0	12
		サーフェスデザイン	0	5	0	0	0	5
		インタラクティブアート基礎演習	3	2	19	0	0	24
		ビジュアルコミュニケーション演習A	3	1	29	0	4	37
		造形材料実験（木質材料）	0	5	0	23	0	28
		デザインリサーチ	0	0	0	4	0	4
		NPO企画演習	0	0	1	0	22	23

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

学部設立2年後に早くも2年次生で学外の展覧会に入選・入賞する学生が現れ（資料4-1-2）、想定する関係者の期待に応える成果が上がりつつある。

資料4-1-2 学生の展覧会等での入選・入賞件数		
年度	件数	備 考
19	4	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工芸コース2年生：高岡市民美術展彫刻の部：奨励賞 ・造形芸術コース2年生：第62回富山県美術展彫刻の部：佳作 ・文化マネジメントコース1年生：金沢21世紀美術館「我が文明：クレイブ・ペレー展」小論文コンクール：佳作 ・デザイン工芸2年生（3名）：工芸都市高岡2007クラフトコンペティション（伝統産業青年会との共同制作において）：入選

(出典：総務管理課総務係にて調査)

観点4-2 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

平成19年度の在學生は1年次生と2年次生のみであるため、4年間の学部教育に対する学業の成果の到達度や満足度を調べることはできない。しかし、授業の成果を学生自身も展示企画に参加して発表した学内展示は、資料4-2-1のとおり活発に行われている。

このことは、学業の成果が関係者の期待する「創造力・デザイン力のある人材育成」を達成しつつある証左であり、また学生が満足して学業に勤しんでいる証左とも言える。

資料 4-2-1 授業成果の学内展示の実績

平成18年度

	会 期	名 称	場 所	展 示 内 容 等
1	1月15日～1月22日	木のおもちゃ展	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年「木工基礎演習」の課題 「木のおもちゃ」の学習成果発表展示
2	1月25日～2月1日	プロジェクトゼミ授業成果発表 展示	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年後期プロジェクトゼミの授業 成果発表展示

平成19年度

	会 期	名 称	場 所	展 示 内 容 等
1	5月14日～5月25日	ものづくりのための描写演習 作品展Ⅰ	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年の演習授業の中間成果発表
2	6月4日～6月15日	ものづくりのための描写演習 作品展Ⅱ	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年の演習授業の中間成果発表
3	6月16日～6月22日	基礎造形表現(立体)授業 成果発表	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年共通基礎科目の成果発表
4	7月3日～7月13日	ものづくりのための描写演習 作品展Ⅲ	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年の演習授業の中間成果発表
5	7月19日～7月24日	デザインプレゼンテーション成果展示 「身近にできる環境行動」	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文2年の演習「デザインプレゼン テーション」の作品を展示
6	7月26日～8月7日	錫クラフト展 他	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	オープンキャンパスにあわせて、 授業成果を展示
7	11月14日～22日	インタラクティブアート授業 成果発表	高岡キャンパス (展示室)	授業で制作した映像作品の複数台モニター による展示発表
8	11月30日～12月7日	シンボルデザイン演習授業 成果展示	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年「シンボルデザイン演習」の 課題作品を展示
9	1月9日～1月18日	金工基礎演習 作品(ベルト)展	高岡キャンパス (2階キャットウォーク)	金工基礎演習で制作したベルトを展示
10	1月9日～1月18日	木のおもちゃ展	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年「木工基礎演習」の課題 「木のおもちゃ」の学習成果発表展示
11	1月22日～1月31日	プロジェクトゼミ授業 成果発表展示	高岡キャンパス (TSUMAMA-HALL)	芸文1年後期プロジェクトゼミの授業 成果発表展示
12	2月 8日～20日	美術の楽しみ(形で表現する) 成果発表展示	高岡キャンパス (展示室)	美術の楽しみ(形で表現する)の授業で、研究 制作した成果を展示して、現代美術の立体に おける在り方を再確認

(出典：総務管理課地域交流係にて調査)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

演習・実習科目での専用のタイムテーブルを作成した結果、1年次生の段階から演習・実習科目に多くのコースの学生の履修が認められ(資料4-1-1)、全コースの学生が短期集中的に様々な創り手の立場を経験した。これは、全学生が創り手としての学力や資質・能力を高め、教育目標である「芸術文化の創り手と使い手の育成」の第一歩を達成したと言える。その結果、早くも2年次生の段階で公募展等での入選、受賞の成果が表れている(資料4-1-2)。

この他、学生自身も展示企画に参加した授業成果の学内展示活動は活発である(資料4-2-1)。このことは、学生が満足して学業に勤しみ、関係者の期待する創造力・デザイン力を身に付けつつある証左と言える。

以上のことから、本学部の学生が身に付けた学力や資質・能力は期待される水準にあると判断する。

分析項目 V 進路・就職の状況**(1) 観点毎の分析**

観点5-1 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

本学部では、平成22年3月に初めて在学生在が卒業するため、該当なし。

観点5-2 関係者からの評価

(観点に係る状況)

本学部では、平成22年3月に初めて在学生在が卒業するため、該当なし。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

該当なし。

(判断理由)

本学部では、平成22年3月に初めて在学生在が卒業するため、該当なし。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「充実した就職支援事業」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

一般に、芸術文化に関する具体的な職業観・就職意識を持ちにくいことを考慮して、1年次の段階から本学部独自に、専門分野別に関連業界から中堅社員を招聘し、「キャリアアップ就職講座」と題したキャリア教育、就職出前講座、就職ガイダンスを実践している(資料2-2-1:P14-11)。各講座終了後のアンケート調査では、学生が興味を持って聞いていることが現れている(資料2-2-2:P14-12)。

平成18年度に2回であったキャリアアップ就職講座の開催数は平成19年には8回に、また、就職出前講座は1回から2回に、さらに就職ガイダンスを加えて、毎年、就職支援事業を強化してきた。

以上のことから、就職支援事業の向上があったと判断する。

②事例2「社会との連携授業の推進」(分析項目Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組)

教育目標の「芸術文化の創り手と使い手の育成」を達成するために実社会で活躍する創り手及び使い手から直接指導を受ける学習指導法の工夫として、平成18年度より実証的授業を実施してきた(資料3-1-3:P14-15,16)。この実証的授業に立候補した授業科目数は、平成18年度15件に比べ、平成19年度は23件に増加している。

加えて、学外との連携授業をさらに推進した学習指導法を導入した現代GP(資料3-1-4:P14-17)の授業では、平成19年度3月時点で、連携授業として予定している平成20年度の授業数は54件、参加教員の延べ人数は41名である。このように、平成20年度以降に行われる多くの授業において社会とつなぐ準備を整えてきた。

以上のことから、社会との連携授業の工夫の向上があったと判断する。

③事例3「学生の創作意欲とデザイン力の強化」(分析項目Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

学生が企画立案に参加して行った授業成果の学内展示は、平成18年度には2回であったものが平成19年度には12回に増えた(資料4-2-1:P14-23)。これは、学生の活発な創作意欲の表れであり、積極的な学外展覧会への応募にも結び付いている。

この結果、早くも学部設立2年目の段階で、学外展覧会等に入選・入賞する学生が現れた(資料4-1-2:P14-21)。

このように、設立早々の学部としては、学生の活発な創作意欲を引き出し、「創造力・デザイン力のある人材の育成」という関係者の期待に応える成果が着実に上がりつつある。

以上のことから、学生の創作意欲とデザイン力の強化があったと判断する。